

			二 八 三 九	和 書 門
四 冊	一 架	一 函	七 〇 號	類

庫	文	閣	內	
三 九 函		二 八 三 九		和 書
二 架	四 冊	〇 號		類

內閣文庫		
番號	和	28390
冊數	4 (3)	
函號	139	167

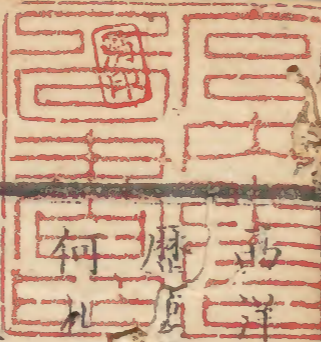


太政官文庫			
和	10116	函	架
書	號	冊	二
門			

明治五年

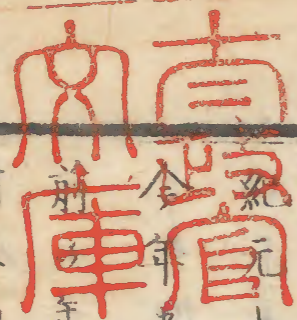
史略

文部省



西洋史略緒言

を學ぶハ先ヅ地理の大略と記憶ヲ預メ
 何れの國何れに在リと知リを肝要トシ又年代
 の數ハ方を知ラベシ總テ西洋多クハ年號を用
 ズニ唯其教法の祖師の生れトシ年を以テ



紀元ト名ツケ其れトシ二年三年ト逐次ニ數
 今更ニ即チ千八百七十一年トシ又紀元トシ
 前ハ潮ミテ數ムルハ故ニ假令ハ紀元百二十
 年前ト云ふ時今より凡ニ二千年前の事と知

緒言

〇一

文部省

古今の歴史概ね皆年代を上古中古近代の三段に分ち即ち上古とハ世の未だ開々ぞ初より紀元五百年までを限り中古とハ五百年より千五百年まで其間凡そ千年と見近代とハ千五百年より今日まで大凡三百七十年間の事を云ふなり然れども此書圖を以て分ちて故に中古と近代の區別を為すに及て混雜を生ず易の故に今之と分ちて

内田正雄識

西洋史略終目錄

卷一

○上古歴史

一 アッシリヤ

二 ノエニレト

三 ペルレヤ

今羅馬

○中古以下各國歴史

一 蘭山

二 希臘の地理の昔魯上

三 日録

一 パロ

二 猶太

三 希臘

一 英吉利

二 西班牙の葡萄

不蘭の比年時

瑞西

連國の瑞典

魯西

以大利

士日基

英地水利加

西洋史略上卷

上古歴史

人の始めハ國々の説異同ありて何れとも定め
 難しと雖も西洋の説ハ亞細亞洲の南端
 及びユフレーと名付る二大河の傍
 於て最早ク人民昌えと云ふ其後紀元二千四
 百年前の此非常の大洪水ありて山野盡く水に
 浸され人民多く溺れ死す唯ハと曰ふ人の
 家族は残り留まり此子孫歲月を經次第に
 繁榮し終に歐羅巴洲亞非理加洲へを移す

トそのなり云ふ又前云へる二大河の
ハ再び人民多く聚りて次第に榮え始め
ロシと云ふ邦を開き其王を「ムロツト」と云へ

アツシリヤ此國「バビロン」に隣りて亦繁榮一時

の王と「ニユス」と云ふ遂に「バビロン」を以て
其近隣を平めて漸く大國と為り「ニブ」曰ふ
地は都を建つ外郭の大ありと周回三日程あり
「ニブ」是れ紀元二千年前の事あり其後「ニ
ユス」王の后「ミラミス」位を嗣で女王と

「バビロン」都を移し又廣大なる居城を造營し宮
殿樓閣の結構都て目を驚かしはハ無し且其
國勢益盛なりて四方を征伐し更し領地を増加
せり○其後數代國王相續くと雖も其事甚詳
ならず皆多くハ酒色に荒れ國政大に衰ふ終に
「サルダナパラス」王の世に至り再び「ニブ」都
せ「バビロン」の人民兵を擧げて忽ち都を攻
入る國王其防く能はずと知り終に都城を
焼き野にき珍寶宮女と共に自ら兵火に投
亡ぶ紀元凡八百餘年前に在り

バビロニアの人民既ハアツシリ
 ンに降盛の國と云フバビロニア
 前ハ云バビロニアと區別トシテ
 或ハ之を後ハバビロニアとも唱
 を経國王「子ブカド子サル」の時
 國勢最も強盛ニ
 隣國を蠶食し遂ハ大國ト成リ
 其後隣邦「ベルシヤ」國ハ亡
 フニシヤ此國小亞細亞
 西岸ニ在リテ他邦ハ先チ始メテ
 易の業を開きたる國ナリ其都トシ

アツシリヤの盛衰此巴ハ海岸ハ
 多クハ繁盛スル都會トナリ此國ハ
 在テ文華最開ラケ殊ハ種々の發明
 製法文字數字算術金錢の通用等皆
 此國ト云フ漸ク他邦ハ傳ハリト云
 以數百年の後遂ハベルシヤ國ハ
 獨太ハ故亞細亞西部の曠野ハ遠
 紀元二千餘年前の此國首長「ア

史記

〇三

卷之...



一て近隣を平定し其領地頗る大なり其後分
 けて「シダヤ」「イタレル」の兩國となり「シダヤ」
 「アシリヤ」國は「バビロニア」國の「ペルシヤ」
 國に併せられ「イスラエル」「バビロニア」
 「ヤ」を攻圍まれ都城灰燼となり了滅亡し國民の
 過半皆囚へられたる「バビロニア」國に
 後年「バビロニア」國の「ペルシヤ」國に
 當り猶太人繼とれて國を歸りを得たり因て再
 ひ國を興せしが後羅馬の盛あり比其國と
 して然るに彼の耶蘇教の祖師此國に生れ教を
 開く不當り之を死刑に處せしむ有り久し
 か

と云ふ者「カナン」の地を
 移り住し其孫「イスラエル」
 に至り部衆と共不久
 く「埃及」に移り住し後
 「摩西」と云ふ者衆と共に
 「小亞細亞」を歸り來り「カ
 ナン」の地を攻取り國
 と立て凡そ紀元千年前
 にお於て王國となす汝
 此の國勢盛なり

史略

〇四

史略

至して又羅馬はははさる

セルシヤハ初め數多の諸侯邦土を分ち了之と

領せしが紀元五百三十年前シリウス王の時不

至と始て全國を一統バビロニアを以て隣

邦と平多一時印度より西の方亞非利加洲の北

部迄と領せし大國とおきり次でダダス王の時

歐羅巴洲を領地と為んと欲し紀元四百九十

年前海陸の大軍と將り希臘國を攻入りし

大不敗北に嗣セルセス再び數十万の軍と將

る希臘國を攻こと雖も又大敗下り國を歸り威

力大不衰ふ其後屢内亂起り國勢次第に衰微を

り不當り希臘國歴山王大軍と將りて此國を攻

未だ紀元三百餘年前の比終に盡く其領地を歸

り

以上諸國皆亞細亞洲の西部に在り以下歐

羅巴洲の東部に在り

亞細亞洲の西部ハバビロニア等諸國

巴不盛ふれ此歐羅巴洲に全く蠻夷の住居あり

更不都會の地とてハ有らざりし漸く人民増

加し其東隅より次第に開き始めて希臘國を成

り

史略

〇五

卷之五

次で以て利イノ羅馬國興れり
 希臘ハ紀元千八百四十年前の比人民漸ク繁
 殖一既ハ都會の地も有りと云ひ傳れども未
 と甚分明ならず其後數百年を経幾箇ハ分ル
 小國と云て「アテニス」「テベス」等と名くる都
 府次第ハ繁榮一各邦多クハ其都の名を以て之
 と別ち稱せり○紀元千二百餘年前各邦の一ハ
 「アルゴス」の王「テベス」の王と戦争を起し其他
 七邦亦「アルゴス」ハ皆「アルゴス」ハ力を合せて「テベス」
 と攻め圍み烈ク戦ひて戰ひて為せしとあり次で各



テベス府ノ景

邦合併して兵を起し小
 亞細亞の「テベス」を攻め
 及ぶ此事の起りハ
 初め「テベス」の太子海と
 渡り希臘國ハ遊歴せし
 「アルゴス」の王之を迎
 へ厚ク款待せしハ「テベス」
 「の太子潜りテベスの后
 と誘ひ自國ハ遁れ去り
 してハ希臘の各邦皆大

○六

怒、相結んで十餘万の兵と起し、「ロイ」の都
 と攻め圍み十年の間烈しき戦争と為り紀元十
 二百年前終つた之と攻落して盡く都府と焼拂へ
 然ども又此永き戦争の爲め小國內混亂を生
 ず人民大に騷動せり。其後各邦或ハ興じ或ハ
 衰へ數百年を経て「アテニス」「スパルタ」の兩邦の
 殊に盛大に至り然るハ「スパルタ」の風俗強
 悍にして動もれば戦闘を好み隣邦を併吞せん
 大とをまと「アテニス」の文化を進むるを
 と開き國と富よ一法度と成り文化を進むるを

主意と為せり。又各邦初めハ皆王を立ると雖
 後ハ皆之を廢して合衆國と成り互に獨立
 し、動もればハ争擾と起せし。紀元四百九十五
 年前「ペルシヤ」國兵十萬の大軍と將りて攻來り
 并當り各邦を致し互に力を合衆烈しき戦争
 所爲し終つ盡く之を討破りを得る。次又
 十年を経て「ペルシヤ」國王再び海陸の大軍と起
 して攻來りし。ども又盡く之を討破り續いて亞
 細亞洲の方へ攻めんとす。然るに「アテニス」國と三十二年間の
 戦争と爲り大に勝利を得る。是より希臘國益

史記

〇七

卷之...

國の榮名文武の學藝及製造等の業又盛ん開き
 就中「大テ」その都より更なる繁榮ありて殿閣寺院等
 華美と極りめ現に他邦之不及なるの無き不至
 此の故に「ハ」人之を妬み終に争端を起す
 兩邦二十七年間の兵亂は此の是より以後各
 邦皆不和を生じ内亂止まじ互に盛衰興廢有り
 紀元三百六十年前の地北方に隣りたる「セ」ド
 「ヤ」國の勢次第に強盛に至り希臘國と合併し其
 王「リ」の威權稍々全國に及ぼせし其後
 是より及んで太子「登」山嗣位して遂に「マ」を以て

登山王出陣



ば一各邦の兵權と總管
 一 大略全國を統轄する
 の勢を起し因て大軍
 と興し亞細亞洲に侵入
 一 紀元三百三十年前の
 比「ペ」ルシア國と大戰戰
 度不及び盡く之を討破
 して「ペ」ルシアを囚ふ
 一 終に其國を以て一皆
 其版圖に歸せしめ次で

近隣を征討して向ふ所敵をうもりの無く更ふ印
 度まで攻入れり又亞非利加洲を征伐し廣大の
 版圖を擴き其功臣を各邦に封じて諸侯と為せ
 たり然るに歴山王歿せしに後諸侯自立して邦土
 盡く分裂しマセドニアの國勢随つて衰へ内亂
 相尋き次で羅馬に亡ぼされ其他希臘國の各邦
 紀元百四十年の頃盡く羅馬の領地に歸せし
 羅馬は以太利の中土に起り希臘興り後更に廣
 大なる領地を開き其版圖亞細亞亞非利加歐羅
 巴に跨りて之と韻頽をべき邦國有らば此年代

歐羅巴洲の内地ハ皆野蠻の散住をうもりて
 之と詳しむる能ハば故に羅馬ハ當時西土に在
 り盡く其著見をうもりの世界を一統せしもの
 謂ふべし是より前此國ハ希臘及ハ亞細亞の
 人民次第に移り土人と雜居して稍く人口を増
 加し紀元千二三百年前の比ハ於てハ處々小都
 會の地を開きたり然るに夫れトロイ落城の時其太
 子春屬を率めて遁れ來り紀元千八百八十年前の
 頃此國のラチユムと云ふ地に上陸し其處の王
 と厚く交り終に其女と娶り禪りを受れて位

昇り更ニ羅馬帝國と稱し後ち都を「アルバ」に移り
降て四百餘年を終り「ユリウス」の孫「ロムルス」
國亂と平多始りて都を羅馬と定む是羅馬國の
始祖ホトて紀元七百五十四年前の事なり「ロ
ルス」位ホ即き隣邦と征伐して漸く領地を廣め
更ニ國內の法律を定め國會を立て、政事を行
ふの法を創せり相繼り數百年間代々の王政法
の改革ハ或ハ近隣を伐ち從へ國富み兵強し其
都羅馬の如きも人口大ニ増加し華美の樓閣等
を築きて弥繁盛の地と成れり紀元五百五六十
年前の比「ユリウス」王の改革ハ因り國民の
貧富ハ階級いと六等ハ分ち大會議の時國民議
事を決するの法と立つ然るニ紀元五百三十五
年前「ユリウス」王の女と婚し國
王と弒し自立して位ホ昇り頗る威權を擅し
て隨意的の政令を行ひ、忽ち内亂興せり
「ユリウス」名つくる貴族終つタルク「ユリウス」
國外ハ放逐し、後全ク國王と立て、即ち「ロ
ルス」王と稱し後二百四十四年ホ方り國號を變
じて合衆國と為し二人の大頭領を立て其在職

羅馬

〇十

羅馬

羅馬

羅馬

一年に限らず更へ又他の者と公選し以て政事を
執行へり然ルとも貴族富豪の者概ね政府の顯
官に任し平民の租税重きが故に政令更へ公平
あらば常々貴族と平民と和せざして百餘年間
數度の争亂有り紀元三百年前の比に至り法度
を改め稍く平民の權を増せり此年代總て隣邦
と戦争絶え以て遂に以太利の全部を平定し
次で「カルタゴ」の領地あり「シバ」島と攻め
紀元二百四十年前より大に「カルタゴ」と戦
争を引起せり蓋し「カルタゴ」國ハ亞非利加洲

の北部「ユニス」の海岸に在りて數百年前より
航海通商の業盛んし地中海の諸島及び西
班牙等を領し富強の國ありしに及ばり羅馬
と戦争し及び海陸迭に勝敗ありしに及ばり
「シバ」島と割て羅馬の領地を屬し漸く和睦
を為せり後三年を経て再び争端を開き「カル
タゴ」の大將「ハニバル」西班牙より大軍を率
てアルプス山脈を越え以太利を襲ひ來り其勢猛
烈にして處々の都府を陥り羅馬の兵之を迎へ
て激戦をとなし雖も屢敗走して遂に之を防ぐに能

○上

ハ以テ十六年間「カルタゴ」の兵國內に縦横
 一羅馬の都甚危かす一が羅馬の大將「シピオ」
 別兵と將りて敵の本國に襲ひ其都に逼り
 り「バルニバル」も軍を引揚げて本國に歸ルリ
 シ「シピオ」之と戦て大に勝利を得終に巨万の償金
 を出さしめ且本國を除くの外盡く其領地を奪
 ひ取り始めて和睦を結ぶに至る是より羅馬の
 勢益々盛大とおきり○此頃羅馬と尚胡顔をへき
 勢ハあつた國ハ「セルト」セルトと「ハル」ハルと
 三箇國より一「セル」セルと一「ハル」ハルと一「セル」セルと
 兵を

交へて勝を得終に紀元百五十六十年前の比皆之
 と攻に同じ盡く其領地を平ら又「カルタゴ」の
 再び其國勢を回復せんとするを忌み遂に其都
 を陥ル之を平定せり是より於て羅馬の領地以太
 利全國より「シ」シ「リ」リ「サル」サル「シ」シ「シ」シ
 合せ亞洲非洲跨り西の方ハ
 佛蘭西西班牙の一端に接して盡く之を伏従せし
 め並無き大國とおきり○羅馬の勢益々強大なり
 て富盛を極むるに當り反て政令亂ル風俗衰ル
 富める者ハ益々盛る振ひ賤しき者ハ益々衰る或



ハ五ノ黨與を結ハ貴族と平民の間ハ内亂起リ
 屢烈キ争鬪ありて其都常ハ騷亂止む特ニ
 紀元八十餘年前「シルラ」と名づく貴族黨終ニ
 政府の全權を握テ「シクテリ」の職不任ハ此
 「シクテリ」と名づくハ威權限り無キ大頭領
 不レテ法度不拘ハ以政令を施シ生殺の權を
 有ス所ハ職あり是國の危急ある不當ハ輒時
 威權を一人ハ歸シ事と處置をコガ為リ不設々
 一所不レテ已ハ先例ありと雖も必ズ期限を定
 め六箇月以上久キ無レ然ラ不レシルニ終身

と期シテ此權を掌握シ已ハ及テ了者を殺セ
 其數を知らズ且隨意ハ國民の所有田地を
 上ルを以テ國內大ハ亂ル之を如何とも去ル能
 ハビ二年ハ一終ハ自ら職を退ク當時此混
 雜ハよりテ處々ハ一揆起リ「シルラ」と黨を異ハ
 其者ハ皆辛シク國外ハ遁ル去リ相尋テ兵を
 興シ或ハ西班牙人と力を合セ大軍を將ルテ國
 都ハ攻入ル者等あり「ガボンペ」之を平シ終
 一一度鎮定スを得ル此頃羅馬の内三人の
 大家あり「セサル」「ポンペ」「クラシユス」と曰ふ皆

非常の豪傑ありて其中「クラシユス」を國內第
 の富家あり此三人深く交りて結ひ共一心を合
 せて國の全權を專あり意の如く小政を行は
 ことを企望せり紀元六十年前の頃「サル」の勢
 持ふ盛んありて大頭領の任を受ルしが後ち西
 方の總督とありて佛蘭西和蘭比耳時め地方を
 平定し又英國を渡りて之を征討し領地を西の
 方が擴む是より以前歐羅巴の西部ハ皆蠻夷の
 住居ありて未だ詳ありざるが此時始めて之
 を征伏するに至り又「クラシユス」大軍を將

るて東方へ發向し小亞細亞の地方を征討せし
 小敗軍し終に命を殞せり故に國都羅馬に於
 て「パボンペ」のみ獨り政府の全權を握り其威
 勢甚盛なり終に「セサレ」を不和を生じ更
 に内亂を醸せり是に於て「セサレ」大軍を將るに
 國都へ歸り「ポンペ」に大戦し終に之を破るに
 盡く殘黨を平す終身の「シッ」に任じ且
 「ペラトル」の位を昇り是れ紀元四十八年前
 の事あり蓋し「インペラトル」とハ全國兵馬の全
 權を掌握するの號ありて後ハ帝位の尊稱と



おれと「セサル」非常の英
 有と以て國政を執り一
 時衆心を得且法律を改
 革し勉めて國益を為し
 事少くして然れども稍
 く合衆共済の國籍を變
 更し自から王位を昇り
 んど欲せしより大なる
 望を失ひ又内亂を生じ
 終に議事院に於て殺害

せり其の次で又羅馬の都に三人の徒黨あり則
 ち「セサル」の甥「タクタビウス」及「アントニー」レ
 ビシユス是れあり共志を合せ政府の全權を
 擁し國體を變せんとい期し「セサル」を殺害せし
 黨不縁故有る者ハ盡く之を追捕し其所有を没
 入せしむるに全國又大に動亂を生ず其間三人互
 不不和を生じ「レビシユス」も自ら遁れ退りしが
 故に「タクタビウス」と「アントニー」との戦闘起
 り「アントニー」は「エジプト」の女王「カリョパ
 トラ」と連合して大軍を興せりと雖も紀元三十一

年前「ラクタビユス」盡ク之を討破り國亂を平ガ
 終ホ「インペラトル」の位ホ昇リ國躰を一變して
 更ユ「カエス」帝と號レ在位四十四年の間
 文物隆興して國勢益盛大を極メ其領地東ハ「パ
 ルシヤ」より西ハ英國ホ達し歐羅巴の大略を包
 有し亞非理加洲ホ跨リ地中海の諸島の如きも
 盡ク版圖あつたきをなし是を羅馬最盛の時と
 以然れども獨逸の内地ホ至ラ當時未ク之を征
 伐ス能ム以蓋し羅馬合衆政治と為リ「ユリ
 以來殆んと五百年ホして之を廢し帝國とあり

と又五百餘年を相續セリ然れども帝位ハ必
 血紛ホ傳ルこと定めきり「カエス」
 「カエス」歿スルホ及ビ「チベリユス」繼テ帝位ホ昇リ
 殘忍暴虐ホして政令大ホ亂ラ又猶太人再ビ國
 と興して「ユリ」羅馬ホ屬セしか此頃猶太人教祖
 の「耶穌」を死刑ホ行ふ其後紀元七十年終ホ羅馬
 の為ホ亡日キ也○帝國と為リて「ユリ」歷代の君
 主或ハ非常ホ殘虐暴戾ホして酒色ホ溺ル人を
 殺スを以テ快樂と為キあり或ハ仁德ありて民
 を愛セリ者あり紀元百三十年の頃「アントニヌ

○其

史記 卷之...

帝の如きは最仁君の聞えありて國民太平の徳澤小浴は然れども其れより以降國勢漸く衰へ政令風俗其宜きを得は兵卒の權強くして縱に帝位を黜陟し尙し意の如くさるるのありとたを忽ち之を毒殺するに至る此年代上下共小殘逆と極はめ其倫理風俗の汗下小陷りしと舉て記載する小違あり以降てシヨクレチヤハ帝子至た自ら其至大の版圖を紛轄し難きを知り親愛する所の大将「キシミリヤ」邦土を分ち與へ別小帝位小昇らるる是より

域内漸く分裂し自ら帝王と稱するもの數多あり既にして耶蕪教次第小國內小廣まり「コンスタンチン」帝大之を信し僧官の大會議を興し國民として一般小此教を奉せしむ且分裂したる邦土を一紛し紀元三百三十三年更小都を東小移を「コンスタンツポル」是より其後域内又混亂を起す雖も「テラドシユス」帝小至り國勢を挽回し再ひ之と紛一せり然れども終り小臨み遺言して版圖を東西二部小分ち其二子を封じ故小紀元四百年の頃小ハ羅馬東西小分ル

互に獨立して東帝ハ今の土耳其希臘小亞細亞
 埃及等と領し西帝ハ以太利西班牙佛蘭西及ハ
 獨逸の南部と領し其後東羅馬ハ尚一千年の間
 連續をと雖も西羅馬ハ百年を出でしを亡ぶ
 羅馬西部の衰へ頃歐羅巴洲大動亂ありて全州
 の人民互に他邦に移住し各國人種の區別略此
 時決定する之を歐羅巴洲居民の大遷徙と名け
 る蓋し是より先き亞細亞洲の内地ハ匈奴と名
 くる野民あり帳幕を以て家と為し沙漠の中ハ
 牛羊を牧し固より住處を定めざれば民種あはれ

常ハ水草を逐ふて轉居し或ハ隣邦を侵掠し
 久しく支那をも禍せし事あり紀元三百七十年
 の頃遂に支那ハ破られ西北の方ハ移り漸く歐
 羅巴洲の東部ハ侵入して土人と逐攘し當時
 歐羅巴洲の土人久しく各地ハ部落と為せし者
 之を防ぐに能ハり遂に其部衆と將ふて隣邦ハ
 侵し入り又其土人と逐攘し此の如く互に相
 驅逐して次第に他邦ハ及ぼし或ハ羅馬の領地
 ハ侵入し或ハ西南の方ハ轉居せり其「ウイジンゴ
 ヲ」「フランクス」「アングルス」「サクソンズ」等の民

種の如き全く此時小於て終小英佛西班牙等の
 國小移り住を大遷徙と云ふハ即ち是あり之ハ
 中て西羅馬の領地ハ皆遷徙の野民小奪ハれ唯
 以太利の地好と維持せし紀元四百五十五
 年又「ワングルス」と名ル民種の為小敗ラレ國
 勢益衰微ト次々獨逸兵の大將「アドアヒル」と名
 ル者紀元四百七十六年「ロミユルス」「ワウグス
 」帝と廢シ自ら王と稱シ羅馬西部此小至テ
 全く此小即「ロミユルス」の建國より凡千二百餘
 年あり

中古以來歐羅巴洲各國略史

佛蘭西國

此國往古の土人を「ゴール」と名リ羅馬「セサル」の
 時其管轄小歸ト後數百年小「ト」羅馬の勢衰ハ
 歐羅巴全洲の居民大遷徙を為シ方リ「ガロン
 クス」と名ル民種國內小移王住ト土人及び羅
 馬の屯兵を平シ遂小邦上と領セリ其酋長「ロ
 ヴ」の孫「クロウ」紀元五百年の比以下紀元の
 二字と略ス
 全國を平定シ王位小昇リ耶蘇教を採用セ故
 小之を佛蘭西國王の始祖と稱を以後代々の國

王多くハ酒色ハ溺ルテ政を治リ以内臣稍ク政
 権を專ホセテ不至リ其中「チャールスマール」ト
 と云ふ者威力最も全國ハ加シテ次で「ピニル」
 「ブレフ」ハ至リ終ハ王位ハ禪を受ク其子「查理曼」
 嗣テ位ハ昇リ英邁大度ハ一々威力内外ハ加ハ
 且強精ハ兵馬を以テ諸國を征討シ獨逸以テ
 利和蘭比耳時瑞西より至リ西班牙ハ北部等と合セ
 之盡ク之を領地と為シ且羅馬法王ハ加冠ハ因
 テ終ハ帝位ハ昇リ是紀元ハ百年ハ一々實ハ
 羅馬ハ盛ホリ一後此ハ如キハ大國と為ルモ

育リ以加シテ不學校を起シ法度と定め殊ハ教
 化を厚クシ其功業ハ大アリ故ハ更ハ大帝と
 尊稱セシ其歿セテハ及ハ太子「路易」位ハ嗣ク不
 肖ク一々大國と紛御テテハ才無ク遂ハ領地を
 分チテ三子と封リ即チ佛蘭西以テ利獨逸是ハ
 皆封建ハ制を用ハ國內を大小ハ諸侯ハ區分
 セホ○此時佛國ハ王トシテ者ヲ「チャールス」二世
 と名ク然ラ不獨逸及ハ以太利トハ故ハ兄弟ハ國
 々レとも此彼互ハ不和を生ト數代ハ間屢ハ戦争
 を為セリ且此頃ハ「ルマニ」と名クテ海賊ハ國ハ

○千

来王冠せしが之と戦ひ屢敗北し防ぐ能ハズ
 終ハ西岸の地を割き與へ和睦を為さず至了後
 世「ハルマンジ」と名られ地是を但「ハルマン
 ン」歐羅巴の北部那威の人民より此頃噠國人
 と共ハ海賊を為し其勢甚ど強猛なり諸邦之
 ハ敵を能ハズ英國も亦噠國人の為めハ領略
 せしきあり○佛國の勢次第ハ衰へ國內の
 諸侯皆政府の命ハ從ハズ「ロエー」ハ「ハ
 ン」侯
 あり者終ハ王ハ逼り位と禪り受け國王と為り
 是ハ九百八十七年ハ在り其後稍ハ國勢を挽回

一都を巴黎ハ定め降て千三百二十八年「チャ
 レス」四世の歿せられ不及ひ近き血統絶えざるを
 「ウロイス」侯「ネリッ」六世其從弟ありて以テ位
 と継ぐり然ハ英國の王「エドワルド」三世佛王
 の親戚とされ故ハ宜しく其國ハ王とすべきの
 論を發し大軍と將りて佛國ハ侵入せし是より兩
 國九十餘年間の戦争と為り此頃英國の勢盛
 かりて之ハ敵ハ難く多年の間数度の戦争ハ敗
 北し領地次第ハ英國ハ奪ハせ「シン」王の如き大
 ハ敗軍して遂ハ擒ハせられ國內頗ハ混亂を極

○主

其後数代の王嗣で立ち或ハ英國と和を講し
 或ハ又戦を為し加ふ内亂屢起して國力大
 小疲弊り千四百二十二年「チャールズ七世」
 至リ又大ハ英國の兵を被り數回敗戦して全國概
 ね其攻め下り所と為り國王辛して「ラルレヤン」
 府ハ籠城せし雖も英兵嚴しく之を圍み若し之
 を攻下せし時ハ佛國全ク亡びて英國ハ屬せ
 んとせし勢有り然るに「ジャンダーク」と名けし
 女子民間ハ起りて義兵を舉げ「ラルレヤン」の圍
 と解き國王の危難を救ひしハ國內兵を舉
 之ハ應者多く死を決して英國の兵と戦ひ
 數度の勝利を獲り次第ハ其土地を回復し全ク
 英兵と攘ふに至り以後兩國の戦争始りて急
 漸く平穩ニ至ルリ○其後数代の國王相繼ぎ屢
 舉地利との戦争有り又諸侯の領地と合併し國
 力漸く強盛ニ赴き政府の威令概ね全國ハ加
 まり降つ「フランス」一世ハ至り豪猛なりて千
 五と動うを好み千五百十九年の頃より西班
 牙王と不和を生じ終ハ數烈しき戦争を為せり
 當時西班牙王獨逸の帝位を兼統し「チャールズ」

〇三

五世と號し斯く兩國合併せしむハ其勢甚盛ニ
 して佛國の兵屢破らレラシメシ一世一度擒
 とれり小至りかとも國不歸りの後復兵と起
 一終身戦闘ニ從事せり此頃獨逸不於てハ教法
 改革の争亂起り次て佛國不及て國內頗る動
 搖レ此争亂ハ從來の耶蘇教固陋ホ一弊害多
 きガ故ホルセルと云ふ高僧新教と名とる一派
 と云ふ人民の之不歸依者多クハ此教徒と刑
 して邪教ありとて之と禁一或ハ此教徒と刑
 不處せしより斯く大争亂を生ぜりあり佛國不

ても此教法の次第ハ廣くを嚴禁せし不
 國內動搖少ホシ其後國王の系統絶えラレ
 ボレ侯と迎へ位不即ホ一む之と
 號を濶達英敏ホ一善く治安を得り路易十
 三世繼て位不昇と年幼ホ一政と聽く能ハ
 宰相リヒリ一政務を總管ハ賢明ホ一能ハ
 を富一民を安んじ千六百四十二年路易十四世
 嗣て位不昇り○路易十四世の時此國最ハ隆
 盛ニ一國力富強と極メ文化甚著一殊ハ國
 土華美を好み廣大なる宮殿を淑造一巴黎の都

の如き歐羅巴洲の第... 國王益
奢侈を極め稍の傲慢を生ず領地を廣めんとす
頻りに兵を起して隣邦を併呑之の由て各國
皆佛蘭西の縦恣あるを忌み獨逸、英吉利、和蘭、西
班牙等力を合せて之に敵抗し數年開戦此
まの之れが為め毎に百萬の財を費し且君主
專治の政令と首と一を平民に侵渙し内は奢侈
を盡し外は軍務に従事せしむる暇不及及び國
力大に疲弊し稍の衰微の徴と顯るるに至り
一七五〇年其後路易十六世の崩

十六世の代に至り次第に衰へ有計此を盡し終
に古來未曾有の大争亂を引起せり ○路易十六
世は仁惠の君なれども昔より弊風を因り貴
族と僧官は威權を恣にし門地有る者ハ坐食
して奢を極め常々賦税を重くし平民を虐め
しかば國民皆政府を怨む深く將に大なる騷
亂に至らんとすの兆已に顯る是に於て十七
百八十九年大集會を以て開き國內
の貴族及び國民の名代人を諸州より呼出し集
議して此流弊を改めんとせし其説終に成



世を其間種々の徒黨起り互に相争ふ其動搖止
 まり千七百九十一年終に大騷亂となり「ロベス
 ピエール」の名なきその過激黨の巨魁にして最
 も残忍暴戾を極め國土及び皇后を獄屋に繋
 まり之を弑す貴族の目も觸れず者ハ盡く首を
 刎ね都て平民を苦めし者を殺し盡すに至り此
 激徒全く政權を握り國體を變じて合衆政治と
 為ると雖も徒黨幾個も分れ互に異黨の者と
 相殺し「ロベスピエール」の黨の如きも亦盡く鐵
 殺せられ其華義を極めし「巴黎」の都ハ忽ち積



屏の山を為せとも内亂
 更不止まざり●時不佛
 國の大將拿破崙ボナ
 ナポレオン非常の英才あり此
 頃兵を將りて以て大利
 攻入り屢舉國の兵を破
 り又埃及を征伐せしめ
 本國の動搖未と止まざ
 りを聞き潛りて大志を
 抱て國を歸り急し合衆

政府の徒黨と逐御け自ら大頭領とふりて政府
を總管し全國の威權を掌握し此時歐洲の各國
合同して兵を興し佛國を攻めりしとて拿破
崙盡く之を討破り大に人望を得終に帝位を昇
り拿破崙一世と號し是より千八百四年不在り是
より数年の間獨逸魯西亜瑞典西班牙等の諸國
力を合せて屢佛國を敵對せし雖も拿破崙の兵
を用ひ鬼神の如く向ふ所盡く之を討破り諸國
を平定して或は之を領地と歸し或は親屬を封
じ國王と爲し或は至り遂に歐羅巴洲の大略皆
屬國と爲り如く其命を奉せざる者無し唯英國
ハ島國にして海軍を以て守ると堅固あり故
に之を攻む能はざり故に各國に令して一切英國
との貿易を禁し英國として自ら疲弊せしめんと
欲を然るに魯西亜ハ此令を奉せざるを以て
千八百十二年拿破崙魯西亜を以てせんを欲し
遂に四十六萬の大軍を起して東北に向ひ大戦
數回ありてモスコウ府を攻入ると魯西亜人
盡く人家を焼拂ひ引退きとれに佛軍此北地の
寒氣を凌ぐ能はざり拿破崙止むを得て引退んと

せし大雪山巴路と塞き魯西亞の兵四方より
 襲ひ来りしかば佛軍之れを為め大に敗れ全
 軍皆路を以て死に拿破崙辛うして巴黎に歸
 るを得たり然れども忽ち又十五万の兵を將と
 して獨逸に進發し是に於て歐羅巴各國皆兵を
 舉ぐて之を逆へ大にライプツィックに於て會戦
 以佛軍全く破れ各國の兵續て巴黎を攻入り終
 に拿破崙の位を黜け地中海の「エルバ」嶋を放ち
 前王の弟を立て之と路易十八世と名く因て千
 八百一四年諸國の使節壇地利の都に會合一各

國の疆界等を議定せしに方り翌春拿破崙潛
 入し「エルバ」嶋を遁れ出で又兵を舉ぐて佛蘭西に
 入り國王を逐れ再び帝位を昇り大軍を將る
 て比利時に進發し是に於て歐羅巴各國の兵力
 を合せしむるに於て大戦争を為し終に
 之を破り又拿破崙の位を黜け遠く亞非理加洲
 のセントヘレナ島を放ち路易十八世の位を復
 せ其後國內稍々平穩に属せし雖も國民徒黨を
 為し相競ふり勢止むる嗣て「チャールズ」十世の
 時威權を以て擅に政令を行ひしより千八百三

〇三七

部

十年内亂又起王一度政府を覆へると雖も再び
 「ルレヤン」侯を立て王とし之を「ルイブリッブ」
 と名く然るに千八百四十八年不至り又動亂を
 生し國王を廢し之を合衆國と為し拿破崙三世の
 甥「ルイナポレオン」大頭領を任せしが終に帝位
 を昇り拿破崙三世と號し其後國內稍く平穩な
 赴き國力富強し文物隆興し加ふに拿破崙
 崙三世英才を以て政權を掌握し大に海陸軍を
 起し一世を雄視を以て千八百五十四年英國と共
 に魯西亜と伐ち有名な戦とハバクボルの砲臺

と陥れ大に國威を輝し次で千八百五十九年撒
 丁と敗れて墨地利と戦ひ大に之を勝ち殆ど各
 國を睥睨をりし勢あり然るに千八百七十年普
 國の王族を以て西班牙國王と為んとすとの論
 より普國と和親破れ拿破崙三世自ら四十万の
 兵を將として獨逸の國界に進發し普魯西王亦
 自ら大軍を將りて之を抗抵し米因河の近傍
 於て大に戦争あり佛國の軍全敗北し佛帝は
 「ルイ退き籠城を」と雖も之を守り能はを自ら城
 と開いて普軍を降す之を由て國內又大に騷擾

復の合衆國と為り更ハ普魯士の軍を防ぎ
々とも終ハ支ハ了能ハ以巨萬の償金と出
地と割きて之ハ與ハ翌春不及以テ兩國漸ク和
睦と為去ハ至キ有
...

○英吉利

上古の土人と「ブリトン」と名ク故ハ此國と指
テ大「ブリタニヤ」とも云ハ羅馬の總督「ヒサル」の
時始めて此國と征伐ハ次ハ羅馬の屬國とナル
至後數百年を経て羅馬の勢衰ハ一ハ歐羅巴各
國の居民大小遷徙ハテ獨逸國の方ト至「アング
ロ」人「サキソン」人等此國ト移リ住ハ土人と平
土地と領略ハ次第ハ分ケルテ數多の諸侯ト為
ルリ其中大諸侯七箇ありテ數百年間互ハ戦争
を為セハ紀元八百二十七年ハ至リ七諸侯の

内以マセキス侯始めて國內を一統す然る其
 後連國人來寇一之と防く能くは漸く土地を奪
 ハル之ハ屈伏一連國王「カニート」の時の如き全
 其領地ハ歸せり其後故の國王の子「エドワ
 ル」王位ハ昇りて連國人及ひ從來の諸侯
 土地を分ち領「エドワルド」の威令全く國內ハ
 加ふる能ハル千六十六年其卒を以て及ひケ
 ント侯「ハロルド」自立して王とらん欲するハ
 當り佛蘭西國の西岸「ノルマンジ」を領せ「ウ
 ル」公大軍と將りて此國ヲ攻入り終ハ全國を

平らりて王位ハ昇る之を「ノルマン」の一統と名
 く其ルヲ數代を経「ヘンリ」二世の如き勇猛ハ
 善く兵と用ひ「ノルマン」より次第ハ版圖を
 擴め佛國內ハ領地を増し又「アイルランド」を平
 定す其後國政稍く衰へ内亂止まり遂ハ又佛蘭
 西地方の領地と失へ王千二百十五年の比國法
 を改革「マグナキルタ」と名く其法度を立て集
 議を盡して政を行ひ敢て國王の威權を擅ハ
 こと得る「ハ」是ハ議事院の起原ハ一終ハ
 後世の國法とありぬ其後「エドワルド」一世の時

ウールズと征伏一又スコットランドと屢戦争
 を為せ王同二世又スコットランドと討て敗軍
 一且つ不徳ホ一て人望と失ひ終つ位を黜ルら
 ぬエドワルド三世の時佛蘭西の王「チャールズ」
 四世歿し太子無くエドワルド三世其親戚おれ
 を以て佛國の王位を昇るべきの論を立て終つ
 自ら大軍を將として佛國を攻入り大勝利と
 得殆ど全國を平定せんとすの勢あり此戦争
 数代相續し前後九十餘年の間屢佛國の兵を破
 り或ハ國王を囚ホ一或ハ「ラルレーン」府を圍ミ

一「事等」已ハ佛國の記中不舉ぐハマリ六世に至
 り内亂を因り終つ兵を班し此に至て盡く佛國
 内の領地を失へし此時政令衰へヨーク侯其前
 王の血統を以て國王を唱へんとを唱へ兵を
 起して之を抗し其子終つ王位を昇りエドワル
 ド四世と號し是ハ於て國內ニツハ分ル二十餘
 年間の大亂と為り常に戦争止まざり「ヘンリ」
 七世起り此國亂を平け始めて靖和に至る是ハ
 千四百八十五年不在り「後」時々内亂あり数
 代を経て千五百五十八年女王「エリザベス」位

〇三

即く賢明にして能く政を治め國內平穩にして
 航海貿易盛ん開け又西班牙國と戦争起り時
 彼國より百五十艘の軍艦を以て攻来りかとも
 盡く之を殲殺せしを得り此比より英國の海
 軍次第に盛大なる起り海外の属國又頗る増加せ
 る女王卒せられ不及其血統を以てスコットラ
 ンドのジェームス六世を迎へて王として合併し
 て一國となれ次で太子詹姆斯一世立ち怒り
 政を行ひしかば人民皆之を怨り忽ち内亂を興
 へ終に國王を弑し國制を改め合衆政府となれ

エリザベス女王



に至り然れども久し
 ち成り又先王の子を
 王國に為り其弟を
 及ひ又内亂起り國王を
 逐ひ黜け此頃和蘭の大
 頭領維廉三世賢なり
 且英皇の親屬なり
 迎へ立て王となり維廉

三世善く民を愛し治と圖り國內平穩なりて日々富盛に赴き又屢佛國を路に十四世と戦争有り維廉三世卒を承り及ひ女王の位に昇り子無くして卒は是に於て其血統を遺ひ獨逸國の内ハノーブルの王ジョージを迎へて王となす即ち今代女王の家系あり其後西班牙佛蘭西等との戦争あり一々も國內平穩にして貿易盛んを開け海外の領地も亦隨し廣夫を先是も然し不ジョージ二世然る政を行はしり千七百十六年亞米利加洲の領地得て存し舉げ合衆國とありて將に獨立せんといひ之より英國に兵と出して七年の間戦争し及し之と平ん能はれ終り其獨立と許可し和議を講を次て佛蘭西の大騷亂起り拿破崙一世の四方と此を至り此國海峡と隔る故に佛申史に攻來ることを得り然とも拿破崙各國に令し一切英國との貿易を禁ト之と疲弊せしめんことを圖り次て英國の大將「ブルント」兵を將りて西班牙と力と合せ佛の兵と戦ひ及ん終り屢之を破り佛國に侵入せり又拿破崙の「エルバ島」と

とありて將に獨立せんといひ之より英國に兵と出して七年の間戦争し及し之と平ん能はれ終り其獨立と許可し和議を講を次て佛蘭西の大騷亂起り拿破崙一世の四方と此を至り此國海峡と隔る故に佛申史に攻來ることを得り然とも拿破崙各國に令し一切英國との貿易を禁ト之と疲弊せしめんことを圖り次て英國の大將「ブルント」兵を將りて西班牙と力と合せ佛の兵と戦ひ及ん終り屢之を破り佛國に侵入せり又拿破崙の「エルバ島」と

道は再び兵を擧げ、不當にウルトロロの大戦
 に於て、ウルトロロ諸國の兵を指揮して之を
 破り終り、此大亂を平治し、其後國內無事なり、
 航海貿易日々繁盛と極め相繼ぎ、今代の女王を
 クトリヤ、千八百三十九年位に即く、至り、爾
 後鴉片の事より支那と戦争し、及び千八百四十
 一年終り、香港の地を獲て和議し、及び千八百八
 百五十四年より、佛蘭西と共に魯西亞を攻め、
 パストポルに於て大なる戦争有り、千八百六十
 五年復、支那と討ち、遂に北京を陥き、事あり、

○獨逸

○墓地利○普魯士

此國又日耳曼と名く羅馬の威あり、頃野民の割
 據を、所かりて、未だ其内地を征伐するに能
 ざりしが、佛蘭西シャルルレマン帝の時、至り、始
 めて之を服従し、帝の版圖後ち分れて佛蘭西、以
 大利、獨逸の三箇國とあり、及び路易ドットル
 始めて國王と為り、域内皆封建の制を用ひ、大小
 数多の諸侯として之を分ち、領せしむ、嗣て、チヤ
 レス王の時暫く佛蘭西と合併せし、雖も國王



史略

部

不徳ありて人望と失ひ八百八十八年位と黜
 らる爾後獨逸王の位は昇り者も都て一定の系
 統を以てせし國內衆諸侯の選舉を係り其權甚
 重し後世に至てハ大諸侯七人あり之を選舉
 する事不定きを有り○ヘタリ王善く國を治り殊
 小ハンガリーより邊境を侵し者と討破り大ハ
 武威を輝せり其子「ラット」一世嗣て立ち英邁
 し百才力有り終ふ以太利の國亂を平げ其王位
 と兼統して兩國を總轄し九百六十二年羅馬法
 王の加冠を因り帝位を昇り是れと獨逸帝の
 始めと降て「コンラツト」三世の時ハ至り國內
 大小亂れ數百年間屢戦争有り且政令衰へ大小
 數多の諸侯皆獨立國の如く各隨意の政令を行
 ひ更ハ獨逸帝の命を奉せり因り國帝と諸侯の
 間ハ屢戦争起り又羅馬法王と和せりして奕世
 混亂絶えり十字軍の起り及ハ國內の諸侯之
 ハ從事者多く「フレデリック」一世の如き自
 ら兵を將めて小亞細亞を征し水ハ溺れ死を其
 後「コンラツト」四世の卒を以て及ハ國內又大小
 擾亂し國帝を立てざりと殆ど二十年ハ及ぶ

〇三五

う千二百七十三年「ハブスブルグ侯」ルドルフ一
 世を立て帝位に即かむ是れ奥地利の始祖に
 して又数代の間屢内亂有る次て「ルキセシタル
 グ侯」の家系帝位に昇ると数世千四百三十八年
 より又「ハブスブルグ侯」アルベルトに位を傳ふ
 次て千四百九十五年「マキシミリヤン」一世帝位
 に昇り衰勢を挽回して積年の騷亂を平げ威令
 稍國內を行はる又諸侯を合同して國法を改革
 し稍く國內治安を稱せり此頃より獨逸帝の位
 は奥地利の家系に代々繼續を可き事と定む

且「ボヘミア」「ハンガリー」の二國又奥地利の領
 地に歸せしうハ千五百年代より其勢家盛なり
 て歐羅巴中の一大國と為りしかるに「マキシ
 ミリヤン」一世の孫「ルキセシタル」五世其血統を以て
 兼て西班牙の王位に昇りて故に兩國一帝に
 屬し其領地「和蘭」「比利時」を以て「太利」に跨り海外
 の屬國ハ殊に南北亞米利加洲の中に夥しく置
 け當時無雙の大國なりて日輪曾て其領内に没
 せりと無くと稱せり然とも佛蘭西王「フランシ
 ス」一世之に抵抗して屢戦争を起し且土耳其の

勢甚猛烈ハリて東邊を攻略し頻り小國內に侵
入を其間教法改革の争亂稍く國內に興り嚴
之禁をとなし雖も人民遂に從ハル千五百三十一
年新教の属を其諸侯カと合せて之を主張し全
國大に動搖し刹さへ外國より此黨を援け
國帝は抗抵せしかば止むを得ず和議を講じて
新教の禁を弛む稍く平穩に復せり千五百五十
六年、ルイ十四世帝自ら位を退き其子、ルイ十五世
世ハ而西班牙の王位を譲り其弟、ルイ十四世
世と以て獨逸帝の位を嗣がしむ是に於て兩國
再び分ち數次で、ルジシンド二世に至り其
新教の黨を惡む之を束縛せしむ更にも内亂
と釀し十六百十八年より全國三十年の大争亂
あり其間人命を損害し其數幾萬と
知られ殊に佛蘭西英吉利瑞典和蘭の諸國此
出して新教の黨を助りかく十六百四十八年
に、ルイ十四世帝は於て大集會を為し各國和議
を結び新教舊教并に行はせり相侵さざ
るあり次で、ルイ十四世帝の時、ルイ十四世
民亂を作し其の大軍此處を衆して國都

ルイ十四世

〇三十七

ルイ十四世

王國とあり嗣て「フレデリック二世」特小智勇
 兼備の豪傑ありて各國と戦ひ屢勝利を獲て更
 小領地を擴め武威を一世小輝し又文化を進め
 法度と改革して治國の要と攬し歐羅巴中の強
 國と稱せし故に國人之を大王と尊稱し其始
 め「^{アウグスタ}」國の女帝「マリヤテレサ」位小即くは及ハ「^{レオポルト}」
 「^{シロ}」と攻取て之を領り次で歐洲の各國其普國
 の日小富盛は赴くと嫉み魯西亞佛蘭西瑞典及
 小獨逸の諸邦一致して共小墺地利ハカと合せ

普魯士と亡ぼさんとせし「フレデリック二世」
 之と敵抗し千七百五十七年より七年間の大戦
 争に及ひ其間概ね数倍の大敵に當り屢苦戦を
 と雖も少くも屈せり終り尺寸の領地をも縮む
 こと無くして和議を講じり至り是より普魯
 士王の英名歐洲に轟たり○其後千七百年代の
 終り至りより國內平穩ありて著りき沿革あり
 らり千七百九十五年墺普の兩國魯西亞と共に
 波蘭國と亡ぼし之を三分して各領地を増せり
 ○佛蘭西國大騷亂の時墺地利ハ「フランス」ニ

世獨逸帝の位不在より數回兵を起して佛國
 と戦争し及ひるも屢拿破崙の爲め討破
 られ殊に兩度其國都を攻入れ之を防ぐ能は
 り終に地を割き償金を出して和議を講じ且拿
 破崙の意を循ひて獨逸の帝位を廢す故に爾後
 奧地利帝と稱せし雖も獨逸全國に同盟國と稱
 し別は皇帝を立つこと無し○普魯士國も亦屢
 拿破崙と戦ひて千八百七年大に討破られ領
 地過半を失ひ漸く和睦に至り其後拿破崙の
 魯西亜を攻入り大に敗軍を食ひ及ひ獨逸の諸

邦皆兵を擧げて佛蘭西に向ふ此時普魯士王
 フレデリック・ウィルヘルム二世他國を先つて兵を起
 し奧地利、魯西亜等と共にライプニッツに於て
 大に拿破崙と戦ひ之を破り續いて佛國を侵入
 し拿破崙の位を黜け因て奧地利の都ウィーンに
 於て大集會を爲し各國の疆界を定め奧地利
 普魯士も亦領地を復すを得たり又獨逸同盟
 の諸邦も皆互に獨立すと雖も全國に管係せし
 事ハ一致して之を行ふべきの約あり故に各
 邦の使節を毎歲フランクフルト府に集會し奧

地利の使節と以て議長と一國事を議せり○千
 八百六十年墺地利と以太利の間ハ戦争起り佛
 帝拿破崙三世以太利と力と合せ三四の大戦争
 有る一が遂に墺地利の軍破ルロンバルジと割
 て以太利に属し和議せ及ふ又千八百六十六年
 墺地利普魯士兩國の間ハ不和を生じ終に獨逸
 全國の争亂となり一エーニググラーの大戦ハ
 於て普魯士國全く墺地利の軍と討破り和議を
 講せし及んて墺地利ハ獨逸同盟の中ハ加ハ
 ると得たりハ一ハルハッススルナツト等

の數邦は以て普國の版圖に入ると其他の諸邦ハ
 南北二部に分るハ北部ハ皆普國の管轄不歸を
 故に普魯士の勢益盛大に起き一ハ西班牙國王
 位相續の論ハ千八百七十年佛國と戦争を起
 し國王ハルレム一世大軍を將りて佛蘭西を攻
 入り拿破崙三世とセダナを捕ふ一巴勒の都を
 攻圍み終に大勝利を得アルカスロレ一
 二州を獲り和議せ及ぶ此時普王兼て獨逸皇帝
 の位に昇り南北諸邦を合し一全國を管轄し其
 勢大不振一又今代墺地利の帝ハ一

都一處々小都府を建て邦土を領略せり土人皆
 之ル々為め小山中引退嶮岨の地立籠
 て更ふ屈せり力と盡して亞刺比亞人と烈
 戦争と為し幾百年間止む時無し一々次第に邦
 土を恢復し亞刺比亞人と逐御り大小の諸侯
 因て土地を分領せり小至り其間諸侯次第
 變革し小より者ハ合併し千四百四五十年の頃
 小於てハ四上國となきり即ちポルキヤ葡萄酒カスチル
 アラゴンナバール等是よりアラゴンの王カスチル
 ジナンド千四百七十九年位に即きカスチルと
 合せ領し次でナバールと平り亞刺比亞人の尚
 南部に在り者と逐攘ひ終ふ大國となりて西
 牙國と號り此頃より國勢甚盛なり地中海の
 諸島と併せ領し航海の業家も開りコロンビユ
 スの亞米理加洲と檢出せりも此千の代に在
 て其地を開拓し板圖と擴め利益を得りて頗
 大なりコロンビユスハ故以太利國ヴェネチアに在り
 航海の術に精し積年地中海より亞非利加洲
 の海岸に往來せしが終つ種々の經驗を因り大
 西洋を越えて尚西の方に進むと云ハ

未ど人の知らざる世にあらんものごとを考へ之
 を實地に驗んと欲せしむる自方及び難く諸國
 の王公に説き勸めしかども皆空説すといふ
 用ひられず次第に貧困に迫り終に西班牙に流
 寓するに至り國王に謁し始めて其説を賞譽殊
 用せしむ是に於て數艘の大船及び路費等を賜
 ふ至千四百九十二年是迄人の往來せざる大洋
 と西に向て開帆し數箇月の間海上の辛苦を経
 て終に宿志を達し亞米利加洲を檢出すといふ
 事なり ○以頃葡萄牙國も亦航海の業次第に繁盛

小赴き國王にシテリ殊にその進歩を勉め毎年數
 艘の船艦を出して亞非利加洲の海岸を搜索す
 しめ始めてマデラ・ソール等の島々を檢出し
 之を領し尚次第に亞非利加洲の西岸に沿ふ
 て領地を擴け且是迄海路より印度に至る難
 を以て常々之を開かんことを志せしが千四百八
 十六年此國の船始めて亞非利加洲の南端に達
 し歸りて後其地を喜望峰と名く其後數年あり
 きて喜望峰を廻り東印度に航海する針路を
 發明し印度及び印度海島々より支那に交易

を聞き次て日本にも未だり蓋し此頃迄印度の
産物の皆駱駝を以て遠く陸地を往来し辛うと
て貿易を為せし今海路より自在不之を運送
せしを得て葡國リスボン^{リスボン}の港、忽ち歐羅巴第
一の都會と為り頗る繁華を極むるに至り○
西班牙王^{カリスト}の唯一女ありて墮地利の
公属^{カリスト}の嫁し太子^{カリスト}を生む一千五百
十六年西班牙王^{カリスト}卒せし不及以他^{カリスト}の血統無れ
之を迎へて位を継がしめ^{カリスト}一世と稱す
又三年を經て墮地利の位を継ぎ^{カリスト}の即位し昇り獨
逸に於てハカリスト二世と稱し故に兩國合併
して一國と為り且和蘭比利時及の佛蘭西の東
の方より以太利の過半と合せて廣大の領地と
管轄せり又南北亞米理加洲の諸邦を攻取り海
外の領地も亦夥しく占領如此の大國ありて
あり然るに教法改革の争亂起り獨逸國內平
穩ありけり加しに佛蘭西王^{カリスト}の専ら
カリスト帝と競ふて多年戦争し及ひて遂に歐
羅巴全洲巴ル^{カリスト}の意の如く強きと見し五百
五十六年忽ち自ら位を断然世を棄てし

カリスト
カリスト

不遁も終身終と讀み器終と玩弄して卒レ
 帝位と退ク不當 西班牙和蘭比利時及
 の海外の領地と合せて其子「カール二世」讓王
 地利の位ハ其弟「フェリペ」禪マリ○カール
 「カール二世」殘忍固陋ホリて舊教と尊奉し新教ハ
 歸ス者ハ嚴シキ刑罰ヲ處シ之と殺シ其
 數を知らレ和蘭の如き終ハ兵と擧レ獨立國と
 成リ又葡萄牙王「セザリ」西班牙王の祖父ホ
 王「カール」太子無ク「カール」卒レ千五百八十年「カール」
 「カール二世」唐ハ乘リ「カール」之と擧レ併レ一國

と為レリ然レ不和蘭の勢次第ハ盛大ニ至リ西
 班牙葡萄牙の屬國其亞細亞亞米理加ニ在リ
 のを奪取リ「カール」此國の貿易大ニ衰微シ國內
 騷擾して甚平穩アリ更レ又英國和蘭等と戦
 争ハ及び大敗して其威勢甚衰ム千六百四十年
 葡萄牙國亦兵を擧レ獨立シ「ブラガ」侯「シコ
 」と立テ王位ホ即カ「カール」む然レとも東印度諸島
 の領地ハ大略已ニ和蘭ハ奪ハレ「カール」因リ國勢
 更レ不振ハシ「カール」不至キリ○西班牙王「カール二世」
 世千六百六十八年「カール」佛國と兵を交ヘ國內

大ニ疲弊ニ其卒を了ス及ハ太子亦ク王家ニ系
 統絶セ然ルニ墮地利ヲ奪ヒス及ハ佛蘭西路
 易十四世ノ孫アリツテ共ニ其分系ありと以テ
 王位ニ即ラントを欲シ互ニ戦争を起シ英吉利
 和蘭葡萄牙ノ諸國皆墮地利ノ力を合セ佛蘭西
 を攻メ加ふるニ國內又徒黨相分裂シ千一百年
 ノ王十三年間ノ大亂と為キ是を西班牙國王
 位相續ノ亂と名ク終ルニリツテ位ニ即キ和睦
 不及ニト雖モ多年擾亂引續キ故ニ國勢益
 衰運ニ赴ク○爾來葡萄牙英國と連合を為

小内ニ佛國拿破崙帝ノ盛ニ及ハ其侵入ニ
 受リ之ニ敵を能ハレハ自ハ佛蘭西ノ國
 と遺テ其南亞米利加洲ノ領地ブレジルニ遁
 次テ西班牙國も又國王ニテ四世と太子ノ
 間ニ内亂起ルノ頃ニ當リ佛蘭西ノ兵を被リ
 亦敵を能ハレ是ニ於テ拿破崙終ニ西班牙王
 と廢シ自ラ其兄ニシテナポレオンを封シ
 國王トシ然れども國民史ニ服セ兵を擧
 之ニ敵對シ屢戦争あり然ルニ英國より
 ニトシ大將トシテ兵を出シ西班牙を援

史略
 四
 史略

カバ全國之ヲ為メハ蘇カト得テ益烈ク
西ノ兵ト戦ハ次第ニ之ヲ遂卻セ拿破崙ハ魯西
亞ハ敗軍ヲ多ヤ自チハ英國ハ軍勢ト共ニ佛蘭
西ノ國都ハ攻メ入リ次ニ舉地利ノ都ハ
ハノ會議ハ於テ葡萄牙ヲ舊ニ復シ西班牙ハ
ルシハ七世國王ト為リ○初メ葡萄牙王
都ヲ亞米理加ハ移セト雖ハ内亂ハ因テ其地ハ
止テ其を得テハ百二十二年終ニ太子ハ
留メテ本國ハ歸ルリ然ルモ自立シテ
國ノ皇帝ト稱シ葡萄牙國王歿スルハ

及バ集議ハ因テ「ペドロ」ノ女ヲ立テ女王ト
為セ「ハ具伯父」ト「ガエル」之ヲ黜ルラカテ國
王ト為リ是ハ於テ「ブレジル」帝「ペドロ」位ヲ其
幼沖ノ太子ハ禪リ自ら兵ヲ將ルテ葡萄牙ハ攻
入王其弟「ミグエル」ト戦ハ之ヲ逐ヒ退リ終ニ
「ハ」位ヲ復ス然レトモ國內徒黨相競ムハ平穩
アリハ女王卒ニ其ノ後太子「ペドロ」五世立テ次
ニ今代ノ國王「路易」一世ハ至リ○西班牙國ハ
「カリスチナ」トシ世千八百三十四年ハ卒ニ其幼
女「イサベラ」嗣テ王位ハ昇ルリ然ルハ此國代

大正

女王を立てざるを以て前王の弟

と結んで大に騷擾を起す

漸く之を鎮定せしむ

然しき内亂起り女王佛蘭西に遁る

復せんと欲し千八百七十年普魯士の王族を迎へ

と為りて其事止む王然れども翌年終つて

王の次子を迎へて國王とれ之を

と名

